

第3回「日本旅館の生産性向上・インバウンド対応の強化等を加速するための
新たなビジネスモデルのあり方等に関する検討会」

議事概要

日 時：平成31年4月9日(火) 10:00～12:00

場 所：中央合同庁舎2号館14階 国際会議室

出席者：

(委 員)玉井座長、

石井委員、大田原委員、岡本委員、北嶋委員(代理)、瀧委員、富田委員(代理)、

永井委員、松井委員、宮崎委員(代理)、山崎委員、山下委員 ※ 50音順

(観光庁)金井審議官、鈴木観光産業課長、田村刊行人材政策担当参事官、坂野観光産業
課長補佐(総括)、中村観光産業課係長

◎開 会

○玉井座長より挨拶があった。

◎議 事

1. 各委員からの発表

○ 永井委員、宮崎委員(代理)、石井委員、山崎委員、松井委員、山下委員からそれぞれ発表があった。

2. 討議

○ 寿司業界が高級店と回転寿司に二極化し、中間層向けのまちなかの寿司屋が潰れていくという流れがあるが、旅館業界もそのようになっていると感じる。中間層を狙うよりも、富裕層なら富裕層とターゲットをはっきりと決めて戦略を練った方が良いのではないか。

○ インバウンド向けのサービスについては、フランス、スイスなど欧州のスタイルを取り入れた上で、高品質化を目指していくべきではないか。また、MICEの受入をどのように位置付けるのか検討すべき。国の補助金についても、地域によって置かれている状況が違うので、提出書類も柔軟に対応できるようにして欲しい。また、外国人労

働者についても柔軟に活用できるようにして欲しい。オーバーツーリズムについては、DMOや自治体のマネージメントにより、訪問地の分散化を図るべき。

- 自然災害が発生すると、外国人は宿泊キャンセルが多くなるが、日本人は復興支援ということで宿泊キャンセルがそこまで出ないということもある。リスクマネジメントの観点から、インバウンドだけでなく日本人宿泊客の確保も必要である。生産性向上のための効率化も大事だが、一方で日本人宿泊客向けのサービスも考慮する必要がある。また、生産性向上のためには、旅館間の連携だけでなく旅館、旅行業者、交通機関、観光行政の間でジョブローテーションが出来るようになれば良い。人材のマッチングが出来るプラットフォームが出来れば有効かと思われる。
- 10年前に比べ、宿泊業の問題点が変わってきたと感じる。10年前は宿泊業全体が落ち込んでいたが、現在は都市対地方、大規模対小規模といったように、対立軸が出来ている。宿泊業はホスピタリティ産業である一方、市場経済とどう折り合いを付けていくかが根本的な問題かと思う。ホスピタリティをどのようにビジネスにつなげていくべきか、次回以降議論したい。

◎閉会

- 第4回検討会での議論の材料として、これまでの意見を事務局にて整理する。
- それでは、第3回検討会を閉会とする。

以上